

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）

このことについて、発生予察特殊報第2号を発表しましたので送付します。

## 特殊報

平成19年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成20年1月28日  
熊本県病害虫防除所長

- 1 病 名：キク茎えそ病（仮称）*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)
- 2 発生植物：キク
- 3 発生確認の経過

平成19年10月、県内の施設キク栽培ほ場において、茎葉のえそ、葉の退緑・えそなどの症状を呈する病害が発生した。外見上、*Tomato spotted wilt virus* (TSWV) によるキクえそ病と酷似していたため、ELISA 法による同定を試みたが検出されなかった。

このため、（独）九州沖縄農業研究センターに同定依頼した結果、CSNV に特異的なプライマーを用いた RT-PCR 法により、本県未発生の CSNV によるキク茎えそ病（仮称）であることが確認された。

その後、同法を用いて病害虫防除所で行った結果、最初に発病が確認された近辺の数ほ場においても、本病が確認された。今回発生が認められた品種は、‘精興の秋’、‘神馬2号’、‘光玉’の3品種であった。

#### 4 生態と伝搬

本ウイルスはトスポウイルス属に分類され、近縁種には、トマト黄化えそウイルス (TSWV)、メロン黄化えそウイルス (MYSV)、インパチエンスえそ斑ウイルス (INSV)、アイリス黄斑ウイルス (IYSV) など、近年問題となっている重要な病害のウイルスが多い。

本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマによって永続伝搬するとの報告がある。また、挿し木や接ぎ木などの栄養繁殖によっても伝搬する。

#### 5 被害と診断

CSNV に感染したキクは、茎にえそ症状を生じ（写真1.2.）、葉に退緑・えそ斑・奇形を生じる。トマト黄化えそウイルス (TSWV) によるキクえそ病の症状と酷似しているため、病徴から病原ウイルスを特定することは困難である。このウイルスの同定には特異的なプライマーを使用した RT-PCR 法を用いる。

## 6 分布

本ウイルスは、最初にブラジルのキクで発見され、その後ヨーロッパなどで確認された。国内では2006年9月に広島県で最初に報告され、翌2007年に栃木県、千葉県、群馬県で確認されている。

キク以外の作物では、ブラジルでトマトに感染したという報告がある。

## 7 防除対策

防除については、無病苗を確保し、ハウス開口部に防虫ネットを張るなど、耕種的、物理的手法を組み合わせ、ハウス内へのウイルスや媒介虫の侵入を防止する。

また、発病株は速やかに除去・処分（埋設、焼却など）すると共に、媒介虫の薬剤防除を行い、ハウス内での二次感染を防止する。



写真1 . 茎部のえそ斑  
(左：罹病株、右：健全株)



写真2 . 葉のえそ斑

特殊報は、病害虫防除所のホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>) に公開。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター

生産環境研究所 病害虫研究室

予察指導係（病害虫防除所）

担当：福永、山田

TEL：096-248-6490